

2023年度第2回新潟競馬特別レース名解説

<第1日>

○ 新潟ジャンプステークス（J・GⅢ）

本競走は、1999年に創設された障害重賞競走。芝3,200mのハンデキャップ競走として創設されたが、馬場改造工事に伴い、2001年から距離が芝3,250mに、2009年からは負担重量が別定に変更された。ホームストレッチでは1周目に3回、2周目に1回の計4回障害飛越が行われ、競走馬の障害飛越を間近で見ることが出来る迫力ある競走となっている。

○ 出雲崎特別

出雲崎（いずもざき）は、新潟県中部の町。家と家が重なり合うように軒を連ね、通りに面した大棟が直角になっている「妻入り」の街並みが有名。日本で初めて石油掘削の機械方式を用い成功した場所として知られる。特産品として紙風船が有名で、国内唯一の製造所があり、新潟県の伝統工芸品に指定されている。

○ 麒麟山特別

麒麟山（きりんざん）は、常浪川と阿賀野川に囲まれた新潟県東蒲原郡にある山。名は、中国の想像上の動物「麒麟」の姿に似ていることに由来する。山の頂上付近にある展望台からは、阿賀野川を一望できる。

○ 関越ステークス

関越（かんえつ）は、関東と越後を合わせた語。関東圏と新潟を結ぶ交通路である関越自動車道、関越トンネルなどに使用されている。関越自動車道は、東京都練馬区から埼玉県川越市・群馬県高崎市・新潟県長岡市を経て新潟市に至る新潟線と、藤岡で分岐し長野市を経由して上越市に至る上越線からなる高速道路。関越トンネルは、関越自動車道の群馬県利根郡みなかみ町と新潟県南魚沼郡湯沢町の県境にあるトンネル。

<第2日>

○ 豊栄特別

豊栄（とよさか）は、新潟県中部にあった旧市名。1970年以来市制を敷いていたが、2005年に新潟市に編入された。

なお、同地区は新潟競馬場の所在地でもある。

○ 佐渡ステーキス

佐渡（さど）は、佐渡島の旧国名。五畿七道の北陸道セヶ国のひとつ。また、佐渡島全域を占める市。佐渡島は、新潟県に属する日本海最大の島。尖閣湾や外海府海岸など観光地が多い。江戸時代には、佐渡金山で繁栄した。国の特別天然記念物に指定されているトキの純国産最後の生息地としても知られ、佐渡市内には佐渡トキ保護センターをはじめ多くの関連施設が置かれている。

○ サマースプリントシリーズアイビスサマーダッシュ（GⅢ）

全6戦で実施されるサマースプリントシリーズの第3戦。

本競走は、2001年に創設された重賞競走。直線芝1,000mを舞台に、3歳以上馬による別定重量戦で実施される。

アイビス（Ibis）は、「トキ」を意味する英語。トキは、国の特別天然記念物および新潟県の「県の鳥」であり、新潟競馬場の「アイビススタンド」の名称にも使用されている。

<第3日>

○ 月岡温泉特別

月岡温泉（つきおかおんせん）は、新潟県新発田市にある温泉。大正時代、石油採掘中に温泉が噴出したことが始まり。硫黄成分の含有量が多く、エメラルドグリーンの色をした美人の湯として有名。

○ 柳都ステーキス

柳都（りゅうと）は、かつての新潟市街地の呼称。1950年代半ば頃まで新潟島の中心部は堀が張り巡らされており、名は、その両岸に柳並木が続いていたことに由来する。2002年には、新潟市中央区を流れる信濃川に架けられた橋梁である「柳都大橋」が開通した。

○ 新潟日報賞

新潟日報は、新潟日报社より発行されている日刊紙。本競走は、同社より寄贈賞を受けて実施されている。

<第4日>

○ ダリア賞

ダリア（Dahlia）は、メキシコ原産のキク科の多年草。名は、スウェーデンの植物学者アンデシュ・ダール（Anders Dahl）に由来する。和名は、花の形がボタンに似ているため「テンジクボタン」と呼ばれる。花言葉は「華麗」「優雅」。

○ 苗場特別

苗場(なえば)は、新潟県と長野県の県境にある上信越高原国立公園に属する標高 2,145m の火山。名は、山頂に点在する湖沼にミヤマホタルイが繁茂し、「苗代田」に似ていることに由来する。山岳スキーに適しており、南東の筍山山麓には苗場スキー場がある。

○ 驀進特別

驀進(ばくしん)は、まっしぐらに進むこと。本競走は、競走馬がゴールを目指してまっしぐらに進む様子をイメージして名付けられた。

○ レパードステークス (GⅢ)

本競走は、3歳ダート適性馬の出走機会の拡大を目的として、2009年に創設された重賞競走。

レパード(Leopard)は、イギリス国王の紋章である盾の脇に描かれている獅子。また、「豹」を意味する英語。古代ローマでは、豹の息には不思議な香りがあるとされ、それによって動物たちを狩ることができる恐れられた。そして、その香りに対抗できる唯一の動物がユニコーンだと信じられていた。